

(Jpn. J. Hosp. Pharm.)  
 技 術 報 告  
 24(3) 317 — 327 (1998)

## 北大病院における処方オーダーリングシステム(4) —薬剤情報提供システムの導入—

沖 洋充, 武隈 洋, 中島かおり, 駿河幸恵, 清川真美, 榊原則寛, 蔵田俊一,  
 小林道也, 川合真次, 宮本剛典, 深井敏隆, 荻野 修, 井関 健, 宮崎勝巳\*

北海道大学医学部附属病院薬剤部†

## Prescription Ordering System at Hokkaido University Hospital (4) —Introduction of a Drug Information Leaflet Producing System for Patients—

HIROMITSU OKI, YO TAKEKUMA, KAORI NAKAJIMA, SACHIE SURUGA, MASAMI KIYOKAWA,  
 NORIHIRO SAKAKIBARA, TOSHIKAZU KURATA, MICHIO KOBAYASI, SHINJI KAWAI,  
 TAKENORI MIYAMOTO, TOSHITAKA FUKAI, OSAMU OGINO, KEN IZEKI and KATSUMI MIYAZAKI\*

Department of Pharmacy, Hokkaido University Hospital, School of Medicine Hokkaido University†

( Received December 12, 1997 )  
 ( Accepted February 12, 1998 )

A computer system for delivering drug information leaflets for patients has been introduced at Hokkaido University Hospital. This system can print out the trade name, color picture, dosage and administration, efficacies, symptoms of side effects, and directions at the time of taking medicine can store about 1,400 items. The information regarding the efficacies and symptoms of side effects was carefully reviewed beforehand by medical doctors. These information leaflets are now provided to out-patients under instructions from medical doctors.

Evidence thus far suggests that these leaflets produce a favorable impression on patients for a safety and a proper use of medicines.

**Key words** —— patient, drug information leaflet, prescription ordering system, computer system

### はじめに

薬剤師法が改正されて、情報提供義務規定(25条の2)が明記されたことに伴い、病診薬局および保険調剤薬局は情報提供業務体制を早急に整える必要がある。日本病院薬剤師会(日病薬)で作成した患者等への薬剤情報提供の進め方(答申

書)によると、「当面は基本情報の提供を十分に行い、医師等との連携がとれ次第、有効性情報、安全性情報についてもでき得る限り早急に提供できるように努めることが望まれる。」としている(表1)。

したがって、有効性、安全性情報については、医師、薬剤師間で情報内容について十分な意思の疎通を図り、情報の違いによる患者側の混乱を防ぐことが大切である。また、医師、薬剤師の連携

† 札幌市北区北14条西5丁目; North 14 west 5, Kita-ku, Sapporo, 060-0814 Japan

表 1. 患者等への薬剤情報提供の進め方 (答申書)

|                                                  |  |
|--------------------------------------------------|--|
| 提供すべき情報の種類                                       |  |
| A. 基本情報 (薬剤師が確定的に判断できる情報)                        |  |
| 薬品名及び関連情報 (成分名, 識別コード, 色調, 形状等も含む)               |  |
| 用法・用量                                            |  |
| 服用上の留意事項 (外用薬・注射薬等も含む)                           |  |
| 保管上の留意事項                                         |  |
| 薬価                                               |  |
| B. 有効性情報 (確定的には医師の判断が必要な情報)                      |  |
| 効能・効果                                            |  |
| C. 安全性情報 (薬剤師が独自に判断できるが, 提供にあたって医師との十分な連携が必要なもの) |  |
| 重大な副作用                                           |  |
| その他の副作用                                          |  |
| 生活上の留意点                                          |  |

は, 患者自らが自分の薬物療法に積極的に参加し, かつ薬剤による被害を回避する本来の目的, すなわち医薬品の適正使用を達成させるためにも極めて重要なステップとなる。

一方, 診療報酬の改訂で処方料中の薬剤情報提供加算 (5 点) が削除され, 別途薬剤情報提供料 (7 点) として新設されたことから, 情報提供にはオーダーリングシステムと連動した情報提供システムが有効と考えられている<sup>1-4)</sup>。このような背景をもとに北海道大学医学部附属病院薬剤部 (以下, 薬剤部) では, 平成 9 年 4 月からの改正薬剤師法施行と同時に日病薬の答申書に基づき, 口頭による説明を継続して行ってきた。さらに同年 9 月より情報提供システムを稼働させ, 主に外来患者を対象に文書による情報提供を開始したところ, 患者, 医師より良好な評価を得ることができたことから, 本情報提供システムの構築方法とその評価について報告する。

## 方 法

### 1. 情報提供の種類, 収集, 校閲, 整理

提供する薬剤情報の種類は, 処方内容 (薬剤, 用法, 用量), 薬の画像, 効能, 副作用, 使用上

の注意, 保管上の注意および一般的な注意事項とした。

このうち, 効能, 副作用, 使用上の注意, 保管上の注意事項の作成は薬剤個々に医薬品添付文言, インタビューフォーム, 製薬企業作成のくすりのしおり, 服薬指導関連書籍等を参考にした。これら個々の情報データは薬剤部内で統一した表現にまとめ原案とした。

#### 1) 効能

適応症に対しては「…の薬です」, また, 適応外使用に対しては「…の作用もあります」と表現することとした。さらに, 特定の診療科のみで用いられる薬効は, 特殊薬効として各診療科で記載するように依頼した。

#### 2) 副作用

重大な副作用についてはすべてを記載し, かつその初期症状を分かりやすく表現することを基本とした。

#### 3) 医師による校閲と整理

院内でのコンセンサスを得るために, 科長会 (院長, 各診療科長, 中央診療部長, 薬剤部長, 看護部長, 事務部長等参加) で薬剤師法改正に伴う情報紙提供の了承を得た後, 校閲用に全薬剤のデータをとりまとめ, 医師に校閲を依頼した。薬剤数が相当数 (約 1400 品目) にのぼるため, 各科での使用頻度が高い薬剤を中心に校閲を依頼した。ただし, 校閲もれを防ぐため 1 薬効分類に対して最低 3 科以上で校閲が受けられるように薬効分類指定を行い配布した。校閲後のデータ (文言) は薬剤部内で形式・表現を統一しすべてをコード化した。最終的にこれを各薬剤毎にとりまとめ薬剤情報データを完成させた。

### 2. システムの構成

当院では, 平成元年より処方オーダーリングシステムが稼働しており, その後, 重複投与や相互作用をチェックする処方構築システムや調剤支援システムの導入等の改良を加えてきた<sup>5)</sup>。オーダーリングシステムは, ホストコンピュータとして NEC ACOS 3600/8 を, 端末は S3100 系 WS を使

用し、ホストで相互作用、重複投与等のチェックを行っている。当院の調剤支援システム((株)トーショー)はホストからの処方データをサーバに取り込み、錠剤分包機、散薬秤量、最終監査、情報提供、お薬手帳用にデータを管理している(図1)。

システムで使用しているコンピュータ卓は、NEC PC-98シリーズで、利用する処理能力によってバージョンが異なる。また、ソフトは「TOSHO 解析処理 Ver 2.0」を使用している。

情報提供用紙「お薬の説明書」発行の可否は、医師の指示に従うものとし、処方オーダーリングシステムにおいて処方登録する際に、「情報提供する(Y)、しない(N)」で選択することとした(図2)。

この際、「薬剤情報提供料」の請求指示がそのまま医事課に送り込まれるため算定も容易であ

る。算定は月に一回と限られているため(処方内容に変更があればその都度)、同一月に処方内容に変更がない場合には自動的に発行されないシステムとした。「お薬の説明書」の発行に使用しているプリンターは、カラーレーザービームプリンタ(キャノン COLOR LASER SHOT LBP-2030)を2台使用し、交互に自動出力させている。出力に要する時間は、1枚当たり約40秒であるため、発行による患者の待ち時間への影響はない。また、出力後の処方変更等に対処するため、処方指定による任意発行も可能とした。

### 3. 提供の方法

「お薬の説明書」は患者に薬と同時に手渡しているが、渡し漏れがないように処方箋上の提供可否の記載を監査時にチェックしている(図3)。「お薬の説明言」を渡す際には、初回の場合は説明書の記載事項を説明し、二回目以降は記載され

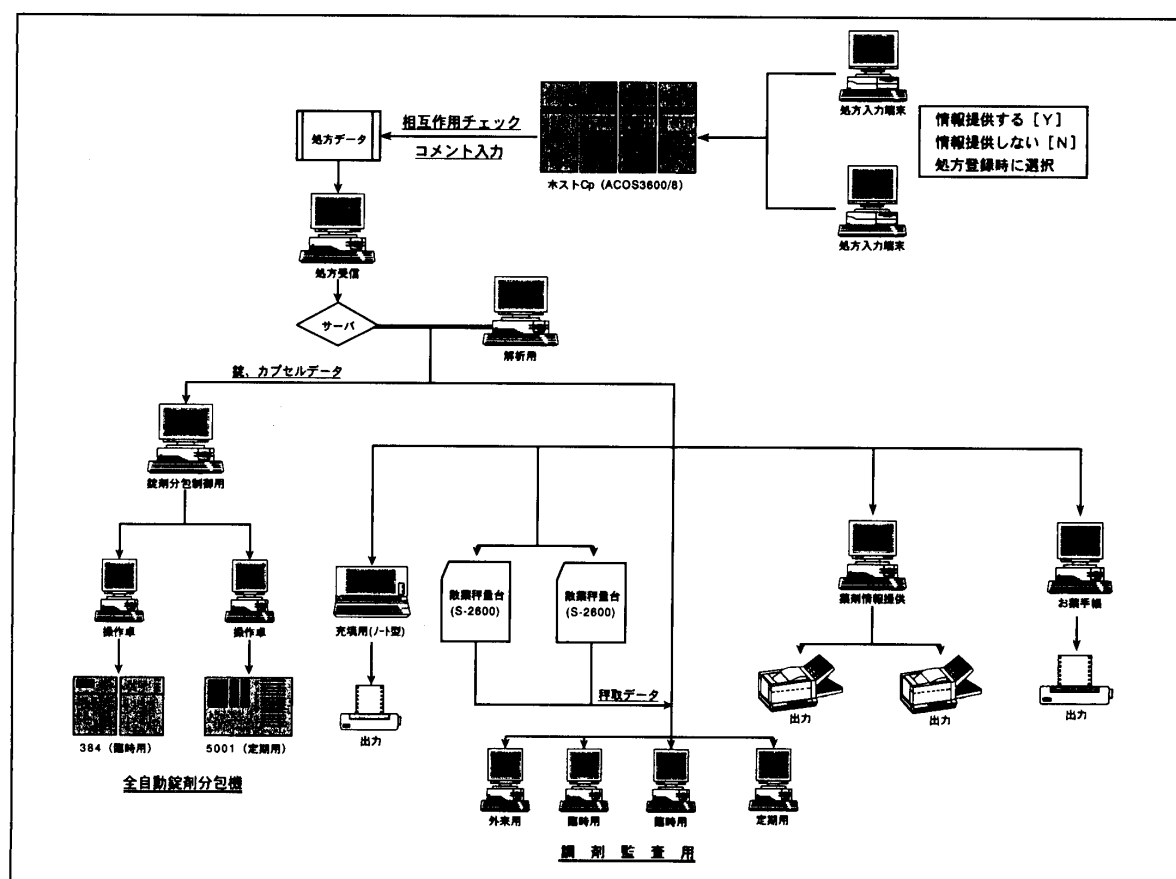


図1. 調剤支援システム構成

|                            |        |              |        |                      |         |
|----------------------------|--------|--------------|--------|----------------------|---------|
| 064                        |        | ★★ 処方オーダー ★★ |        | 北大 97.12.01 20:18:52 |         |
| 9900088                    | 薬剤部    | 専用患者 1       | 27歳 1月 | 男                    | 神経内科 外来 |
| 外来処方箋 健保                   |        | 院内 (確認)      |        | → 院内処方箋です。情報提供しますか?  |         |
| R p ) 1                    | 971201 |              |        |                      |         |
| 1 マドバール錠                   |        | 3 錠          |        |                      |         |
| 3 × 食後                     |        | 1 4 日分       |        |                      |         |
| R p ) 2                    | 971201 |              |        |                      |         |
| 1 ユーロジン錠                   | 2 m g  | 1 錠          |        |                      |         |
| 1 × 寝前                     |        | 1 4 日分       |        |                      |         |
| R p ) 3                    | 971201 |              |        |                      |         |
| 1 セデス G 顆粒                 |        | 1 g          |        |                      |         |
| 痛い時                        |        | 7 回分         |        |                      |         |
| 薬剤情報提供 行う [Y] 行わない [N] : Y |        |              |        |                      |         |
| BR** < 英数 >                |        |              |        |                      |         |

図2. 情報提供指示画面

ている副作用を中心にその有無を確認し、その徴候があれば診療科に報告するよう指導している。

なおこれとは別に、平成9年11月からは、同時に「お薬手帳」と「お薬手帳用ラベル」も提供してその利用を推奨している。「お薬手帳」は、北海道薬剤師会が発行しているもので、全患者に渡している。

#### 4. 提供内容

##### 1) お薬の説明書の構成

「お薬の説明書」は、患者氏名、患者ID番号、性別、受診料名、受診日、処方医師名、薬剤引換番号を基本情報とし、処方内容にしたがって、処方番号、薬剤画像、薬品名、用法、一回服用量、効能、副作用、使用上の注意、保管上の注意を薬剤情報とした。さらにすべての患者に共通する一般的な注意事項を用紙末尾に表記した(図4)。

さらに、患者に注意を促すことを期待して「服用前に必ずお読み下さい」の見出しも加えた。また、特定診療科でのみ期待する薬効や適応外の効果は、特定の診療科で該当薬剤が処方された場合にのみ効能の欄に表記される様式にした。

一般的注意事項の内容は、患者が相互作用や記載以外の副作用の出現にも目を向けると同時に、過敏症や妊婦に対しても注意が喚起されるような文章にした。

##### 2) 薬剤データの構成

すべてをコード化した薬剤情報のデータは、1コード40文字以内で構成されており、各薬剤に該当するコード内容が表示される形式になっている。データの構成は表2に示す各コードと画像ファイルからなっており、システム上ではコードの分類毎に別ファイルで管理している(図5)。薬品情報マスターファイルでは、表示薬品名、画像、各コードの割り当てを行い、薬効、副作用、使用上の注意、保管上の注意の各マスターファイルでは、コードの内容を管理している。

##### 3) 薬剤データの内容

薬効の表示順は、適応症に対する効果、実際に使われている適応外の効果、診療科特定の特殊薬効とした。

副作用は、添付文書にある重大・重篤な副作用の初期症状と頻度の高い副作用症状とし、かつ患者がそれを見て自覚でき得る表現とした。高頻度

|                                                                                                                 |  |                                                                                                                                                                                                     |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 氏名 <b>トクサツ イフネ センゾウ</b><br>患者番号 <b>9900088</b><br>生年月日 <b>54.10.29</b><br>年齢 <b>27歳 1ヶ月</b><br>診療科 <b>神経内科</b>  |  | 院内 外来処方箋<br>引継番号 <b>229-1</b><br>医師氏名 <b>北大 ドクター</b><br>処方開始日 <b>H 9.12. 1 朝</b><br>処方発行日 <b>H 9.12. 1 20:20</b>                                                                                    |  |
| 氏名 <b>トクサツ イフネ センゾウ</b><br>患者番号 <b>9900088</b><br>生年月日 <b>54.10.29</b><br>年齢 <b>27歳 1ヶ月</b><br>診療科 <b>総合診療科</b> |  | R/P<br>01 <b>* 新患 *</b><br><b>マドパー錠</b> <b>3 錠</b><br><b>3×食後</b> <b>14 日</b><br>02 <b>ユーロジン錠 2mg</b> <b>1 錠</b><br><b>1×寝前</b> <b>14 日</b><br>03 <b>セデスG顆粒</b> <b>1 8</b><br><b>痛い時</b> <b>7 回</b> |  |
| R/P<br>01 <b>* 新患 *</b><br><b>アキネトン錠</b><br><b>パーロデル錠</b><br><b>3×食後</b><br>02 <b>ユーロジン錠</b><br><b>1×寝前</b>     |  | ※情報提供 可※<br>薬剤師<br>監査印<br>北海道大学医学部附属病院                                                                                                                                                              |  |
| ※情報提供不要※<br>薬剤師<br>監査印<br>北海道大学医学部附属病院                                                                          |  |                                                                                                                                                                                                     |  |

図3. 処方箋上の情報提供可否の印字

の副作用は「～の症状が現れることがあります」として副作用の先頭に、また重大な副作用は、「以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出て下さい」の定型句の次にその初期症状を表示した。

副作用のデータをコード化するにあたっては、副作用の種類(表3, 分類の項)に特有な症状あるいは初期症状を種々に複合させたり、また一部削除する等してコードを作成した。

使用上および保管上の注意にかんしては、基本

的な注意事項がすでに稼働中のオーダーリングシステムにより薬袋ラベルに印字されるため、特に注意を要するものに限って「お薬の説明書」にも記載されるようにした。

#### 4) 薬剤データの校閲

内容にかんしては、医師の校閲により1383品目中482品目(約35%)が変更になった。薬効についての校閲例を図6に示した。図中、催眠・鎮静剤では使い分けを意図した表現になっており、短時間作用型のエバミール、レンドルミンは「寝つき

## お薬の説明書 (服用前に必ずお読み下さい)

外来

引換券番号: 229

診療科: 神経内科

ID: 9900088

患者氏名 薬剤部 専用患者1 様

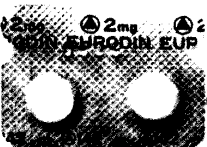
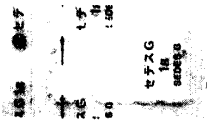
1 / 1

1997年12月05日

性別: 男

処方医師: 北大 ドクター

薬品名 / 用法・用量

- Rp. 1  **マドパー錠**  
 1日 3回 1回 1錠 毎食後  
 効能: 筋肉のこわばりを改善する薬です  
 パーキンソン病の諸症状を改善する薬です  
 副作用: 立ちくらみが現れることがあります  
 以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出て下さい  
 発熱、脈が速くなる、手足に紅いあざができる、のどの痛み、皮膚や白目が黄色くなる  
 胃の痛み・もたれ、食欲低下、胸やけ等  
 使用上注意: 眠気を催すことがあるので注意して下さい  
 この薬を服用すると、尿や汗・唾液が黒っぽくなる場合があります
- Rp. 2  **ユーロジン錠 2mg**  
 1日 1回 1回 1錠 ねる前  
 効能: 眠りを深くする薬です  
 副作用: 以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出て下さい  
 頭痛、めまい、ふらつき、体がだるい等  
 使用上注意: 日中に眠気を催すことがあるので注意してください
- Rp. 3  **セデスG顆粒**  
 1回 1包 痛い時  
 効能: 熱を下げたり痛みをやわらげる薬です  
 副作用: 以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出て下さい  
 胸が苦しい、ふらつく、冷や汗など  
 目の充血、口内炎、皮膚が紅くなる、皮膚の灼熱感と痛み等  
 息苦しい、咳が続く、ぜいぜいしておさまらない等  
 手足に紅いあざができる、鼻や歯ぐきから出血する、尿に血が混じる等

- 飲みあわせをしてはいけない薬もありますので、他に服用している薬があれば、診察時に申し出て下さい
- ここにあげた薬の副作用は、使用された方に必ず現れるというものではありません
- 薬を飲んで、発疹・かゆみなどが現れた場合、すぐに申し出て下さい
- 記載してある副作用以外にも、人によって様々な症状が出る場合があります。お気づきになりましたら、すぐに医師または薬剤師に申し出て下さい
- 妊娠中に飲んではいけない薬もありますので、妊娠の可能性のある方は医師に申し出て下さい
- その他、薬についてご質問のある方は、遠慮なくご相談下さい

北海道大学医学部附属病院 薬剤部 電話 011-716-1161 内線 5685, 5686

図4. お薬の説明書

をよくなる薬です」の表現のままであったのに対し、中間型・長時間作用型のユーロジン、ペノ

ジールは「眠りを深くする薬です」のように校閲を受けた。情報提供に対する医師の関心度、協力

表2. 情報提供用薬剤データ構成

| レコード名称    | 内 容                              |
|-----------|----------------------------------|
| ホストコード    | ホスト薬剤コード (7桁の数字)                 |
| 薬品名称      | ホスト登録名称                          |
| 薬効コード     | 1 薬剤に最大 5 レコード                   |
| 診療科コード    | 特殊薬効の対象科 (1 薬剤に最大 5 診療科)         |
| 特殊薬効コード   | 科独自の使用方法・適用外使用 (1 診療科に最大 5 レコード) |
| 副作用コード    | 1 薬剤に最大 5 レコード                   |
| 使用上の注意コード | 1 薬剤に最大 3 レコード                   |
| 保管上の注意コード | 1 薬剤 1 レコード                      |

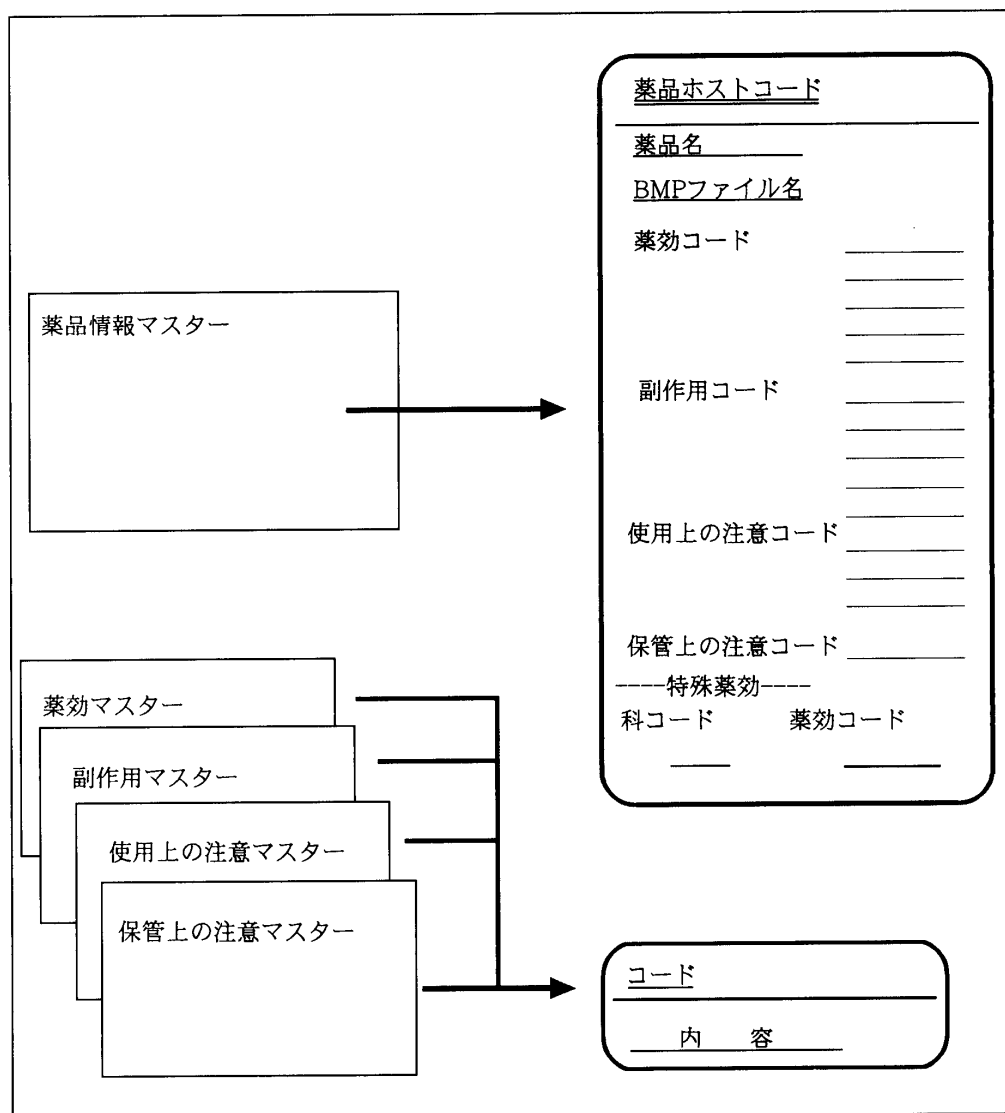


図5. システム上でのデータ管理

表3. 副作用一覧

| コード    | 内 容                                      | 分 類                    |
|--------|------------------------------------------|------------------------|
| S00001 | 目が痛む、視力が低下する等                            | 緑内障、眼圧亢進               |
| S00002 | けいれん、頭痛、不安感、注意力が低下する等                    | 間代性痙攣、昏迷、錯乱            |
| S00003 | 体がだるい、ねむい、便秘、多飲多尿など                      | 高カルシウム血症               |
| S00004 | 皮膚が紅くなる、皮膚の灼熱感と痛み等                       | Lyell(中毒性表皮壊死症)        |
| S00005 | 手足のしびれ、筋肉痛、体がだるい、尿が赤い等                   | 横紋筋融解症+偽アルドステロン症       |
| S00006 | 発熱、筋肉痛、関節痛、息苦しい、冷や汗が出る、気分が悪くくらくなる等       | 鉄欠乏性貧血+SLE(全身性エリマトーデス) |
| S00007 | 発熱、皮膚が紅くなる、水ぶくれ、かゆみ等                     | 接触性皮膚炎+二次感染症           |
| S00008 | 皮膚に点状の内出血または紫斑がでる等                       | TTP(血栓性血小板減少性紫斑病)      |
| S00009 | 発熱、血圧低下、激しい咳、尿量の減少など                     | 感染症                    |
| S00010 | 発熱、血圧低下、激しい咳、尿量の減少、けいれん、皮膚が紅くなる等         | 感染症+中枢神経障害+腎障害         |
| S00011 | 味が分からなくなる、発熱、のどの痛み、体がだるい、皮膚が紅くなる、尿量の減少など | 味覚異常+ネフローゼ症候群          |
| S00012 | 頭痛、めまい、しびれ感、けいれん、意識障害、運動麻痺など             | 神経障害+中枢神経障害            |
| S00013 | けいれん、意識障害、運動麻痺など                         | 中枢神経障害                 |
| S00014 | 頭痛、運動失調、意識障害、ふるえ、筋肉のこわばり、急な激しい腹痛、吐き気など   | 肺炎+神経ベ-チット病症状          |
| S00015 | 体がだるい、便が黒くなる、尿量の減少、顔や手足がむくむ、関節痛など        | 急性腎不全+HUS(溶血性尿毒症症候群)   |
| S00016 | 発熱、リンパ節が腫れる等                             | リンパ腫                   |
| S00017 | 血尿が出る、尿の回数が増える、尿が濁る、排尿時に痛みがある等           | 出血性膀胱炎                 |
| S00018 | 激しい腹痛、下痢など                               | 腸炎                     |

## 強心配糖体

心臓の働きを強め、脈拍を正常にする薬です

心臓の働きを強め、頻脈を抑える薬です

## Ca拮抗剤

心臓の発作を予防する薬です

狭心症の発作を予防する薬です

## 混合ホルモン剤

女性ホルモンを補い、それに伴う症状を……

女性ホルモンのバランスを整え、不正出血や月経異常などを……

抗パーキンソン剤  
(神経内科のみ)

手や指のふるえ、筋肉のこわばりを改善する薬です

パーキンソン病の諸症状を改善する薬です

## 催眠・鎮静剤

(中間型・長時間型の一部)

(特殊薬効として追加)

寝つきをよくする(よくしたり)……

眠りを深くする(したり)……

図6. 校閲後の変更例(薬効)



度が高いことを示す事例であると同時に、示唆に富む校閲例といえる。

また、特殊薬効が追加された薬剤は153品目にもおよび、これによって薬剤選択とそれによる治療目的が十分に反映された情報提供用紙となった。特殊薬効表現例を表4に示す。

一方、副作用の表現例では解熱鎮痛剤の「発熱」や催眠・鎮静剤の「異常な興奮」などは削除された。また、精神神経科用剤のように副作用症状が多いものはその表現が簡略化され、患者の混乱や不安を招く表現が減少した(図7)。さらに、診療経験に基づいて消化器症状などが追加された例もあった。なお、使用上の注意、保管上の注意にかんしては、日病薬の指針にあるように、薬剤師が独立して提供できる情報であることから、医師の校閲を受けていない。

以上のようにして作成した稼働時のコード数は、薬効が420、科別特殊薬効が48、高頻度の一般的副作用が68、重篤な副作用が389、使用上の注意が79、および保管上の注意が12コードであった。

画像データは、デジタルカメラで撮影したものを加工(384×288ピクセル)し、ビットマップ(BMP)ファイル形式にして1薬剤1ファイルで

管理している。

## 5. 薬剤データ管理

薬剤データの管理は、データを統一しコード化するのに用いたデータベースソフトウェアメーカー・ProVer 3.0」(Claris社製)で行っており、データの追加・変更への対処が簡便にできるようになっている。「ダイヤモンド錠」を例に管理しているデータの作業画面を図8に示す。図中、診療科コードの「08」は産婦人科、「09」は眼科、「10」は小児科、「11」は耳鼻咽喉科に該当する。また、全薬剤のデータを紙面に出力したものを「薬剤情報提供用薬品マスター」としてファィリングして、内容をいつでも閲覧できるようにしている。画像データは、データ容量が大きいためシステム上で管理されており、色調などの修正も画像処理ソフト「Photoshop Ver 4.0.1J」(Adobe社製)を用いて容易に行うことができる。

## 結果と考察

システム稼働後の「お薬の説明書」の発行率は、院内処方による全外来処方箋発行枚数に対して、9月が50.7%、10月が47.4%であった。処方内容に変更がない患者が40%以上であり、さらに本用紙は同一月内の同一処方には発行されないこ

表4. 特殊薬効表現例

| 対象薬剤     | 効 能 表 現                                             | 診療科                   | 特 殊 薬 効 表 現                                                                     |
|----------|-----------------------------------------------------|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| セルシン     | 寝つきをよくしたり、不安や緊張をやわらげる薬です                            | 麻酔科                   | 筋肉の緊張をほぐす薬です                                                                    |
| シンメトレル   | 脳の働きを活発にし、意欲を高める薬です<br>筋肉のこわばりを改善する薬です              | 神経内科                  | パーキンソン病の諸症状を改善する薬です                                                             |
| パーロデル    | 手や指のふるえ、筋肉のこわばりを改善する薬です<br>ホルモンの過剰を抑え、種々の症状を改善する薬です | 神経内科<br>精神神経科<br>産婦人科 | パーキンソン病の諸症状を改善する薬です<br>気分が晴れない等、ゆううつな気持ちをやわらげる薬です<br>母乳が出すぎるのを抑えたり、排卵障害を改善する薬です |
| デバス      | 気持ちを落ち着かせ、眠りやすくする薬です                                | 神経内科<br>麻酔科<br>麻酔科    | 筋肉の緊張をやわらげる作用もあります<br>痛みを感じにくくする作用もあります<br>筋肉の緊張をやわらげる作用もあります                   |
| サンピロ     | 緑内障を治療する薬です                                         | 眼科                    | 瞳孔を小さくする作用もあります                                                                 |
| テオコリン    | 心臓の働きを強め、むくみをとる薬です<br>気管支を拡げて呼吸を楽にする薬です             | 産婦人科<br>小児科           | 新生児の無呼吸を改善する作用もあります<br>新生児の無呼吸を改善する作用もあります                                      |
| アダラート    | 血管を拡げて血圧を下げる薬です                                     | 産婦人科                  | 腹部の張りをやわらげる作用もあります                                                              |
| メソトレキセート | 細胞の異常な増殖を抑える薬です                                     | 第二内科<br>整形外科          | 関節の腫れや痛みをやわらげる作用もあります<br>関節の腫れや痛みをやわらげる作用もあります                                  |
| サワシリン    | 細菌の発育を抑える薬です                                        | 第三内科                  | 消化性潰瘍治療薬の働きを助ける作用もあります                                                          |
| ドバストン    | 筋肉のこわばりを改善する薬です                                     | 神経内科                  | パーキンソン病の諸症状を改善する薬です                                                             |

**解熱鎮痛剤**

「発熱、・・・等」

「発熱」を削除  
「息苦しい、ぜいぜいしておさまらない」アスピリン喘息の表現を追加**催眠・鎮静剤**

「異常な興奮など」

削除

**テグレート**

以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出てください  
 鼻や歯ぐきから出血する、発熱、のどの痛み、体がだるい、目の充血、口内炎など  
 皮膚が紅くなる、皮膚の灼熱感と痛み、皮膚や白目が黄色くなる、吐き気、息切れ等  
 息苦しい、から咳、顔や手足がむくむ、尿量が少なくなる、関節痛、筋肉痛など  
 手足のしびれ、激しい腹痛、動悸、脈の乱れ、突然の胸の痛み・圧迫感など

以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出てください  
 発熱、口内炎、皮膚が紅くなる、皮膚の灼熱感と痛み等  
 めまい、ふらつき、体がだるい等  
 激しい頭痛、吐き気など

**プロピタン**

眠気を催すことがあります  
 目がかすんだり、二重に見えることがあります  
 以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出てください  
 発熱、頻脈、筋肉のこわばり、口のまわりの動きがいつもと違う等  
 激しい腹痛、食欲不振、脱力感、けいれん、皮膚や白目が黄色くなる等

眠気を催すことがあります  
 口やのどが渇いたり、尿が出にくくなる場合があります  
 以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出てください  
 目がかすむ・痛い、物が二重に見える等

**アキネトン**

眠気を催すことがあります  
 口やのどが渇く、尿が出にくい、光をまぶしく感じる場合があります  
 以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出てください  
 発熱、発汗、頻脈、筋肉のこわばる等  
 目がかすむ、二重に見える、眼が痛い等

眠気を催すことがあります  
 以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出てください  
 発熱、脈が速くなる、筋肉がこわばる、口のまわりの動きがいつもと違う等  
 激しい腹痛、けいれん、皮膚や白目が黄色くなる

図7. 校閲後の変更例（副作用）

とを考慮すると、提供率は極めて高いと判断される。さらに、当初発行が困難と思われた精神科においても60%以上の提供率を示しており、医師の十分な理解が得られていると考えられる。この要因としては、院内全体で情報提供に対する意思の疎通を図ったこと、および医師に特殊薬効の記載を含めて、薬効、副作用等の表現の校閲を依頼したこと等が大きく影響していると思われる。

一方、患者からの反応としては、大変理解しやすいとの感触が得られるに伴って、副作用の症状に対する相談件数も増大した。さらに、副作用を

報告したことによって薬剤が変更になった等の事例がみられるなど、副作用に対する関心が高まってきたものと判断できる。これらの相談内容のうち、重篤な副作用の疑いがある事例については、医師に通知するなどの措置をしており、適正使用の推進を図る当初の目的に沿った患者対応が可能になってきたと思われる。また、副作用による服薬回避の訴えは現在のところ認められていない。

薬剤情報をただ単に提供することが、薬剤師法25条の2における薬剤師の義務を果たすことでは決してない。提供した情報によって患者が薬剤に

|        |                          |         |     |         |                                  |       |  |
|--------|--------------------------|---------|-----|---------|----------------------------------|-------|--|
| 検索コード  |                          | 検索コード対応 |     | 済みチェック  | 済み                               | コード検索 |  |
| ※コード   | 216021                   | 薬効分類コード | 213 | 分類内容    | 利尿剤                              |       |  |
| 薬品名称   | ダイアモックス錠 250mg           |         |     |         |                                  |       |  |
| 効能コード1 | 尿を出してむくみや浮腫を軽減する薬です      |         |     | 診療科コード  | 10                               |       |  |
| R00095 |                          |         |     | 特殊効能4A  | 呼吸性アシドーシスを改善する作用もあります            |       |  |
| 効能コード2 | けいれん発作を抑える薬です            |         |     | R00504  |                                  |       |  |
| R00097 |                          |         |     | 特殊効能4B  |                                  |       |  |
| 効能コード3 | 睡眠時の無呼吸を改善する薬です          |         |     |         |                                  |       |  |
| R00099 |                          |         |     | 特殊効能4C  |                                  |       |  |
| 効能コード4 |                          |         |     |         |                                  |       |  |
| 効能コード5 |                          |         |     | 副作用コード1 | めまい、ふらつきが現れることがあります              |       |  |
|        |                          |         |     | A00003  |                                  |       |  |
| 診療科コード | 08                       |         |     | 副作用コード2 | 以下の症状に気づいたときは、医師・薬剤師に申し出て下さい     |       |  |
| 特殊効能1A | 生理前の緊張をやわらげる薬です          |         |     | A00001  |                                  |       |  |
| R00100 |                          |         |     | 副作用コード3 | 発熱、のどの痛み、体がだるい、目の充血、口内炎、皮膚が紅くなる等 |       |  |
| 特殊効能1B |                          |         |     | S00070  |                                  |       |  |
| 特殊効能1C |                          |         |     | 副作用コード4 | 手足に紅いあざができる、鼻や歯ぐきから出血する、顔色が悪くなる等 |       |  |
|        |                          |         |     | S00501  |                                  |       |  |
| 診療科コード | 09                       |         |     | 副作用コード5 | 顔や手足がむくむ、尿量が少なくなる、関節痛、尿に血が混じる等   |       |  |
| 特殊効能2A | 眼圧を下げる作用もあります            |         |     | S00646  |                                  |       |  |
| R00503 |                          |         |     | 使用上コード1 |                                  |       |  |
| 特殊効能2B |                          |         |     |         |                                  |       |  |
| 特殊効能2C |                          |         |     | 使用上コード2 |                                  |       |  |
|        |                          |         |     |         |                                  |       |  |
| 診療科コード | 11                       |         |     | 使用上コード3 |                                  |       |  |
| 特殊効能3A | メニエール病の症状（めまいなど）を改善する薬です |         |     |         |                                  |       |  |
| R00101 |                          |         |     | 保管上コード  |                                  |       |  |
| 特殊効能3B |                          |         |     |         |                                  |       |  |
| 特殊効能3C |                          |         |     |         |                                  |       |  |

図8. 薬剤データ管理作業画面

関心を持ち、積極的に薬物療法に参加すると同時に、薬剤による被害を未然に防ぐことが具現されてはじめて薬剤師が医療を担う一員としての役割を果たすことができたといえる。すなわち、情報が患者に有効に利用されなければ、情報の価値は低く、提供する意義は極めて小さいものとなる。薬剤師に科せられた義務は、あくまで「薬剤の適正使用」に結びつく情報提供であり、最終的には適正な医療の遂行にある。今回作成した「お薬の説明書」は、患者が自らの治療に参加でき得る情報であり、いたずらに不必要な情報まで付加したものではない。その意味で、薬剤部主導の形で医師の内容校閲という協力を十分に得られたこと

が、システムの構築に結びついた大きな要因と思われる。

### 引用文献

- 1) 小見山俊人, 早川達, 関谷繁, 医薬ジャーナル, **33** (10), 2374-2378 (1997).
- 2) 山岡恭子, 医薬ジャーナル, **33** (10), 2399-2404 (1997).
- 3) 門林宗男, 月刊薬事, **39** (9), 1797-1800 (1997).
- 4) 下堂園権洋, 本屋敏郎, 山田勝士, 月刊薬事, **39** (9), 1821-1825 (1997).
- 5) 川合真次, 小林道也, 深井敏隆, 荻野修, 井関健, 工藤俊彦, 宮坂和男, 宮崎勝巳, 病院薬学, **22**, 189-197 (1996).